



—文化の薫りより高く—
私たちの誇れる
貴重な文化財

総合情報館の機能の一つである博物館部門では、貴重な美術品を展示するなど、町の文化・芸術の拠点として情報を発信しています。令和2年12月に収蔵された作品9点の一部をご紹介します。

棟方志功 (むなかた しこう)

1903~1975年 青森県青森市出身

大正時代から昭和時代にかけて活躍した版画家。

少年時代にゴッホの絵画に感銘を受け油絵画家を志していましたが、川上澄生^{はつなつ}の版画「初夏の風」に感激し、版画家になることを決意しました。

力強い生命力あふれる数々の作品は、国内外で高い評価を得ました。日本の近代画壇での版画の地位を向上させただけでなく「世界のムナカタ」と称され、20世紀を代表する世界的巨匠の一人とされています。

てんちみょうえんのいんひづ
▲**天地明炎之韻妃図**(丸山悦郎コレクション)

1950年代 倭画(肉筆画) 45.4×35.2cm

棟方志功は、1956年第28回ヴェネツィア・ビエンナーレで、国際版画大賞を受賞しました。その業績を記念し、1959年、ロックフェラー財団とジャパン・ソサエティの招待で初渡米します。その際、各地の大学で版画の講義・個展を行いました。

この作品は、ニューヨークでの展覧会のために尽力した美術館幹部へのお礼として制作されたものです。右上には「紐育客中」とあり、紐育はニューヨーク、客中は旅行中を意味しています。

川上澄生 (かわかみ すみお)

1895~1972年 神奈川県横浜市出身

棟方志功と同時代に活躍した版画家であり詩人。

アメリカやカナダを放浪した後、栃木県立宇都宮中学校(現:宇都宮高等学校)の英語教師として働きながら、本格的に木版画制作を始めました。

長崎南蛮風俗などに惹かれた素朴な彫り味と懐古的な詩情に満ちた独特な作品を、数多く生み出し「木版画の詩人」と呼ばれています。



ぶんめいかい か よこはま

▲**文明開化 横浜**
(丸山悦郎コレクション)

木版多色刷 51.8×69.8cm

澄生にとって、横浜は文明開化の窓口であり懐かしい故郷でもありました。文明開化をテーマとした作品は他にも多く制作されています。



なんばん
▲**南蛮ぶり**(丸山悦郎コレクション)

木版多色刷 45.1×59.2cm

男性は、戦国武将の前田利家の肖像を元にしてしています。他に南蛮をテーマとした作品では、南蛮人や南蛮船を描いています。



「世界的な版画家の価値ある作品など、多くの町民の皆さんに楽しんでいただきたい」と話す、この度美術品をご寄附いただいた丸山悦郎さん(祖母井)

町の文化・芸術の向上に向けて

総合情報館では、今回ご紹介した美術品以外にも、町内で出土した土器など貴重な資料を数多く保存管理しています。これらを「町の宝」として次世代へと継承していくとともに、展示などを通して順次ご紹介していきます。ぜひご来館ください。

総合情報館 ☎028(677)2525